

1. 評価結果概要表

平成 20年 7月 22日

[評価実施概要]

事業所番号	2092500020
法人名	特定非営利活動法人 中部日中友好手をつなぐ会
事業所名	グループホーム大地
所在地	長野県下伊那郡阿智村駒場703-1 (電 話) 0265-45-2040

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年7月13日	評価確定日	平成20年8月25日

[情報提供票より] (20年 6月 17日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人		
職員数	9 人	常勤5人	非常勤4人	常勤換算8.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,000 円		その他の経費(月額)	59,000 円
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (6月 17日 現在)

利用者人数		9 名	男性		名	女性	9 名	
要介護1		1名		要介護2		1名		
要介護3		3名		要介護4		4名		
要介護5				要支援2				
年齢	平均	82 歳		最低	76 歳		最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	橋上クリニック 水野歯科医院
---------	----------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

日中友好手をつなぐ会が中国帰国者も介護を受ける事の大切さを話し合い、この地に「グループホーム大地」が設立された。ホームの近くには地域を代表する川が流れ、部屋の窓を開ければ緑の風にホッとする自然に囲まれた環境である。法人の「高齢者が輝く一瞬一瞬を大切に。安心感のある笑顔の絶えない自由な暮らし。家族、地域の結びつき。」の運営方針を基に、利用者と職員の何気ない触れ合いに温かさが感じられ、共に支え合っている様子が伺える。施設に入ると広いホールに、ゆったりとしたソファが置かれ自由な時を楽しむ事が出来るよう工夫されている。職員は常にその人らしい暮らしを大切にして、利用者と共に生活していく事を考えており、今後地域に根ざした家族のような温かなホームになっていく事が期待できる。

[重点項目への取組状況]

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
①	今回が初めての評価である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 初めての外部評価である。自己評価については、運営者から評価の意義の説明があり、職員全員で取り組みを行った。サービス提供に対する意識の変化があり、評価過程の大切さを発見する事が出来た。これを自己啓発に繋げようとする姿勢が伺われる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、ホームの情報提供を中心に話し合い、委員からの意見が出されている。今後は幅広い地域関係者の参画を得て、地域の皆さんの理解を広げ、今回の評価の取り組みや改善への取り組みのモニター役になってもらいながら、サービスの質の確保に活かしていただきたい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族への対応は、毎日の生活状況を連絡帳で報告されている。特に来訪時に、意見、要望等を意見処理書に記入し、ミーティングや会議の際全職員に周知し共有して、家族や利用者が安心できる運営提供に努めている。今後、家族会の設置を検討されているので、家族から出された要望や意見等を、運営に活かす体制を組織として徹底される努力が伺われる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区の準会員となり、河川の草刈等に参加している。これをきっかけに今後は、地域の祭りや行事等の交流も行いながら、小学生、中学生、高校生やボランティアとの活動を広めて行こうと計画されている。一軒の家として地元の人々と更なる交流が持たれる事を期待する。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の生活を継続支援しようと作られ、地域の人達にも判り易い理念である。「謙虚な気持…、人の話や…穏やかに…」と理念に掲げ更にホームでの生活を具体化し、住み慣れた地域で安心した暮らしを支える事が明記されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング等において、理念に基いたサービス提供がされているか具体的に振り返っている。管理者・職員は、この理念がグループホーム大地の運営指針となるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の準会員となり、河川の草刈等に参加している。今後地域との交流に積極的に取り組むよう計画している。	○	事業所が地域から孤立することなく、地域の一員として、地域の活動や、学校、保育園等の交流を積極的にもたれる事を計画されているので、今後の地域との交流を期待している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての受審である。全員で自己評価を行うことによって、評価の意義や目的の理解ができた。この結果をサービスの質の確保に活かそうと努力している。		

グループホーム大地

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	第1回が開催され、参加メンバーよりホームへ 建設的な意見をもらう事ができた。今後定期的 な開催によって地域の理解と支援を得るよう計 画している。また、今年度の外部評価の結果を 報告し、意見をもらうようにしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村と ともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業運営上の課題等を村の担当者に相談し て、解決を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状 態、金銭管理、職員の異動等について、家 族等に定期的及び個々にあわせた報告を している	家族の来訪時には、毎日の生活振りを個々の 連絡帳や話の中で報告している。ホームでの 出来事等が書かれており、家族にとっては、楽 しみな時間となっている。今後ホーム便りを毎 月発行して情報提供を積極的に行っていくよう 計画されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職 員ならびに外部者へ表せる機会を設け、そ れらを運営に反映させている	連絡帳や来訪時を通じて、意見や要望を言っ てもらえるようにしている。出された意見等は 意見処理書に記入し、ミーティング時に話し合 い、反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や 職員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、代 わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配 慮をしている	数名の職員の交替はあったが、利用者へのダ メージ、家族への不安がない様に、利用者 には必ず職員がそばにいる事を説明している。 家族の来訪時には、きちんと説明し対応して いる。		

グループホーム大地

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修会等に参加できるよう、職員配置を工夫して受講している。外部研修参加後は全職員が共有できるよう報告の機会も作っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯田下伊那地区の連絡会に入会し、近隣のグループホームとの交流を行っている。その中で事例検討等の学習会を設け、事業所同士協働しながら質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にながら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	顔なじみの環境であるが、利用開始時には、利用者と家族に見学して頂き、短時間でも過ごしてもらい、徐々に馴染んでもらってから、安心してサービス利用が出来るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有していて、日常から教わる事がある。「ジャガイモの皮は、こうやってむくと良くむけるんだよ」「板五平もちは、こうやって板に付けて焼くと落ちないよ」等利用者から教えてもらう場面づくりを多く持てるよう工夫している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望、意向を大切にし利用者からの言葉や行動、表情から察するようにしている。困難な利用者には、家族や関係者から意向を把握して、職員会等で話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしく暮せるよう、日々の関わりの中で報告、記録、ミーティングを通じて介護計画に反映している。利用者のより良い暮らしが支援できるよう職員全員で意見交換して、モニタリング・カンファレンスを行い、介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活の中で、家族や利用者の意見や要望を記録して、期間前に見直しを行っている。状態が変化した時には、家族への相談、職員と話し合い一人ひとりの状況に合わせた見直しがされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院介助や外泊の支援等利用者の満足度を高めるように努力している。又、グループホームに家族が泊まれるよう柔軟な対応を行っている。		

グループホーム大地

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医、又、ホームの協力医との連携を取りながら対応している。家族が通院出来ない時は職員が代行していて、その結果を家族に報告し、良い関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化には対応しない事業所であるが、より良い環境でサービスを提供できるよう検討している。	○	入居時にホームの方針を説明しているが、今後利用者の変化や状況にあわせて家族等と話を継続していくことが望ましい。また、職員間においても全員で方針や具体的なケアについて共有できるよう、すすめていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いには気を配り、ミーティング時には、プライバシーを損ねない対応を学習して徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営方針にも明記されており、ホームの周辺へワラビ採りに出かける利用者、ゆっくりと庭を散歩される利用者、一人ひとりの状態や思いを配慮して、その日の流れの中で常に職員が利用者に合わせる体制で支援している。		

グループホーム大地

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で利用者と、盛り付け、配膳、片付けを共に行い、職員も同じテーブルを囲み楽しい食事のひとときを大切にしている。利用者が「やりたい」という気持ちを上手に引き出している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	汗をかいた方には、シャワーを利用して頂いたり、事業所の都合で入浴時間を決めず、入浴希望を聴き、ゆっくり入浴して頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩、ドライブ、台所の手伝い等、その方の楽しみや生活歴に合った役割があり、利用者一人ひとりの力を発揮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて外出、散歩が出来るよう支援している。今まで生活してきた家まで職員と散歩しながら行くことは、楽しみの一つとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける弊害を理解しており、外出したような利用者を察知したら、さりげなく声を掛けたり一緒について行き、自由な暮らしを支援している。常に利用者のホッとした表情を大切にしている。		

グループホーム大地

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備えて訓練や地域の協力体制、災害に備えた備品等の準備を整える体制を検討している。	○	運営推進会議を通じて地域の方や消防団等の協力を得て訓練等定期的実施されることを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量の確認、体重管理をチェック表に記録して栄養状況を職員が把握している。一人ひとりの状況に合わせお代わりが出来たり、嗜好を把握して、献立に取り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの近くを流れる川のせせらぎを感じながら、利用者が自由に過ごせる広いホール。そこにはソファが置いてありゆっくりテレビ鑑賞したり、思いおもしろい読書を楽しめる場所がある。廊下の各所には畳の腰かけが置いてあり、2～3人の歓談が出来る空間の中で居心地の良い場を工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、用意された家具や身の回りの品物がきちんと整理されている。	○	馴染みの物を活かして、利用者本人の意向を確認しながら家族と、職員がその人らしく過ごせる部屋づくりをされることを期待する。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。